

高等学校地理における巡検学習の評価研究

神田 竜也*

I. はじめに

巡検学習とは、小・中・高校等の生徒が野外へ出て地理的事象を観察したり、調査したりする学習活動である。とくに、1単位時間で実施可能な「ワンポイント巡検」も提唱され、すでにその実践が積み上げられてきた。その一方で、巡検学習の実践に止まらず、その評価も進められるべきであるが、そうした研究は松岡(2012)、今井(2014)など必ずしも多くはない。

ワンポイント巡検では、1単位時間という制約から観察の要素が強くなるという。しかしながら、企画する教師の考え方によっては、地理的事象の観察はもとより、地図の読み取り、思考・判断をとまなう内容を盛り込むことができるであろう。また、巡検後の課題として簡単なレポートを課すことで、生徒が書いた地域の特色を評価することもできよう。

筆者は、この研究に先立って、岡山大安寺中等教育学校の4年生地理選択者を対象に、駅前開発に関する巡検学習を実施し、その実践報告と評価を行った(神田, 2019)。巡検学習の評価において、観察力・読図力・思考力を生徒が巡検中に解く各設問、表現力を生徒が書いたレポートで判断した。その結果、観察力・読図力は得点が高く、思考力、表現力、知識・理解の順に低くなる傾向にあった。

既往の研究は、神田(2019)を含め、1回の巡検学習を対象としたもので、複数の回にわたる巡検学習の評価研究は管見のところみられない。地理の授業のなかで年2回の異なる巡検学習を実施し、その評価を行うとすれば、より一般的な評価の傾向や能力の伸長を把握できると

考えられる。また、そうした評価研究の結果は、巡検学習への理解や普及を促し、さらには今後の授業改善にも役立つことが期待される。

以上の問題意識から、筆者は岡山後楽館高等学校の地理A選択者を対象に、2018年度から春と秋の計2回巡検学習(ワンポイント巡検)を実施し、その評価研究を試みることにした。本稿では、2018～2019年度における巡検学習の結果と評価を報告する¹⁾。

本稿の構成は、つぎのとおりである。第1に、学校の特色と巡検学習の内容を述べる。第2に、巡検学習の評価方法、その結果および考察を示す。その際、表現力など巡検の各能力については、その伸長にも目配りしたい。第3に、巡検学習における生徒の意見・感想を検討し、あわせて態度・関心との対応にも触れつつ私見を述べ、最後に巡検学習をふまえた指導のあり方を展望する。

II. 巡検学習の計画と実施方法

1. 学校の概要

岡山市立岡山後楽館高等学校(以下、本校とする)は、2019年に創立20周年をむかえた単位制総合学科で、併設型の中高一貫校でもある。生徒の半数は、後楽館中学校からの進学者である(80人、内進生という)。生徒は、大学進学文系および理系、ビジネス、健康福祉、建築・デザイン、総合の6コースのいずれかに属する。各教科科目を生徒自身が選んで受講し、授業の多くは1コマあたり100分で展開されている。地理歴史科については、世界史A・B、日本史A・B、地理A、岡山の歴史と文化(学校設定

*倉敷翠松高等学校・非常勤講師

科目)の計6科目が開講されている。地理Aは日本史との選択必履修科目で、3年次に開講され、進学や総合コースなど全コースから選択者が受講している²⁾。また、大学入試で利用者がいないこと、中学地理への苦手意識を引きずったまま選択していることから、筆者は教科書の内容をそのまま教えるような授業をしていない。すなわち、授業では、世界の諸地域の生活と文化を中心に進めた。その理由は、以上のイメージを払拭することのほか、本校では海外からの視察や学校訪問を積極的に受け入れており、生徒が外国人と触れ合う機会があることを考慮したからである。生徒のなかには、すでに海外渡航経験のある者も存在する。

そうしたこともあり、筆者が行ってきた授業には、おおむね生徒の多くが興味関心をもって受講している印象がある。あくまで世界地誌中心であるが、その一方で学校周辺など身近な地域も目配りしてほしいという願いがあり、巡検学習の企画と実践も行ってきた。本校では、創立当初から「シティキャンパス」として、総合的学習の時間などで学校周辺を調べたり、各種公共施設を訪問したりすることが行われてきた³⁾。地理における巡検学習も、まさにシティキャンパスの趣旨に合致した取り組みである。

2. 巡検学習の形態と実施方法

巡検学習には、教師説明型、生徒活動型、その混合型などがある。教師説明型の巡検では通常、教師が生徒を引率して、観察ポイントで随時説明を行うものである。一方、生徒活動型の巡検は、教師の引率はなく、生徒自身がフィールドを歩いて観察等の体験をする。いずれにも長所と短所がある(表1)。教師説明型では、観察すべき地点において詳しい説明を伝えることができる一方で、外に出た解放感から説明を聞かない生徒も出てくる。生徒活動型では、目に見えない詳しい情報を伝えることができないが、生徒自身が巡検に臨むため、主体的な学びが期待できる。筆者は、生徒活動型および混合型の2つの巡検学習を設定した⁴⁾。以下、それぞれの巡検学習を巡検1、巡検2とし、そのテーマと概要、日時を示す。

巡検1では、学校周辺の「防災」に着目した。自然災害は、都市・農村にかかわらずどこでも起こりうる。したがって、高校に通う生徒においても、自分が住む地域や学校周辺でどのような災害が起こりうるかを知り、災害が起きたときの行動・対応を確認しておくことが求められる。災害時の避難場所や被害予測など生徒自身の野外観察は、その第一歩になると思われる。この巡検学習においては、教師の準備が過大で

表1 巡検学習の形態と長所・短所

	長 所	短 所
教師説明型	・教師が生徒を引率して観察地点で説明を行うため、詳しい情報を伝えることができる。	・外に出た開放感から、説明を聞かない生徒が出てくる。 ・言葉だけではメモが取れないことがある。
生徒活動型	・生徒がクイズ感覚で楽しく巡検に取り組むことができる。 ・生徒自身が巡検に臨むため、主体的な学びにつながる。	・目に見えない詳しい情報を伝えることができず、重要な地域情報を見逃すおそれがある。

資料：岡山巡検のしおり(今井英文氏作成)を一部改変した。

なく下見などで済むこと、また1単位時間で実施可能なことがあげられる(表2)。

実施日時①

2018年5月28日(月)
第1～4校時
計2コマ(生徒数23人、28人)

実施日時②

2019年5月27日(月)
第1～2校時
計1コマ(生徒数27人)
2019年5月30日(木)
第1～4校時
計2コマ(生徒数23人、26人)

巡検2では、岡山中心部の地域変化をテーマに設定した。対象地域の岡山市番町は、慶長年間に武家屋敷が形成され、当時の町割が残っている。ここには社歴の古い施設がある一方、都市開発が進行して往時の木造家屋は減少し、その跡地には新興住宅が立地するようになった。生徒には、このような地域の大きな変化に気づかせ、岡山市のなかでの地域的特色と役割を意識づけさせたい。なお、この巡検学習では、まず歴史背景を生徒に理解させる必要があり、それは生徒活動型だけではやや困難と判断したため、教師説明型と生徒活動型を組み合わせる行うこととした(表3)。

実施日時①

2018年10月29日(月)
第1～4校時
計2コマ(生徒数23人、28人)

実施日時②

2019年10月28日(月)
第1～2校時
計1コマ(生徒数27人)
2019年10月31日(木)
第1～4校時
計2コマ(生徒数23人、26人)

本巡検のうち生徒活動型では、教師があらかじめ用意した設問を生徒自らが解答する⁵⁾。生徒に当日配布するプリントには、上段に設問、下段には地図が載せてある。設問の番号と地図中の番号が対応する。たとえば、後掲図2の間2②は「ここには・・・があります。何という神社ですか。」という設問では、地図中②のところに行き観察すると確認できる。

巡検学習の展開については、まず巡検学習の内容、進め方、諸注意を行った後、各自がフィールドに出て各問いに取り組む(1時間程度)。生徒活動型では、グループで進めてよいことにしている。帰校後は、教室で清書用ワークシートを受け取り、地域の特徴や問題をレポートにまとめる。なお、巡検2では、消防署前で番町の歴史について教師が説明する。したがって、このときの生徒活動型巡検は50分程度にした。

Ⅲ. 巡検学習の評価方法と結果

1. 評価方法

巡検学習の評価については、以下の観点から行うこととした。

- ・プリントの問いに関する適切な野外観察ができているか。【観察力】
- ・地図の活用や読み取りが適切にできているか。【読図力】
- ・野外観察の内容を整理し、論理的な説明ができているか。【表現力(・思考力)】
- ・(巡検1) 学校周辺の防災に関する知識を身につけている。【知識・理解】
- ・(巡検2) 歴史的背景やその変化に関する知識を身につけている。【知識・理解】

まず、観察力については、地図上の場所を指定し、生徒がその事物を当てたり、どんな危険があるか、どんな変化があるかなど観察したりする能力である。巡検1では図1の間1①④⑦⑧⑩、巡検2では図2の間2①②④⑥⑦がそれぞれ該当する。読図力については、地図上で標

表2 巡検1の学習指導案
[導入15分、展開80分、まとめ5分]

テーマ	地図を見て学校周辺を歩いてみよう		
授業目標	生徒自身が地図を活用して学校周辺を観察し、防災を視野に入れた地域的特色や課題を考える。		
	学習活動・内容	指導上の留意点	評価
導入	<p>学校周辺の巡検学習とその内容を聞く。</p> <p>「今日のシティキャンパスでは、水害と地震に注目し、自分の身を守ることも考えて、学校周辺を歩いてみることにしましょう。」</p> <p>課題プリントをうけとる。</p> <p>巡検学習の進め方を聞く。</p> <p>巡検学習の諸注意を聞く。</p> <p>[当日うける注意事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・解答の順番は自由。 ・クラスメートやチームで進めてもよい。 ・実施後50分が近づいてきたら、課題ができていなくとも学校に戻ることにしよう。 ・建物内には立ち入らない（入らなくてもわかる問題にしている）。 ・事故がないように安全に注意して行動する。 	<p>野外学習時のケガや重大な問題が生じた場合は、状況に応じて学校へ連絡し、担当者は適切な処置をとる。</p>	<p>態度・関心</p>
展開	<p>課題プリントを持って街を歩き、各問いに取り組む。</p> <p>[問いの内容]</p> <p>土地の高さ、川の流れる方向、標高差の計測、建物の耐震補強、災害時に注意すべきこと、役にたつもの、など</p>	<p>生徒が巡検上の諸注意を守っているか、進捗状況を確認する。進捗状況がきわめて遅い生徒には、ヒントを与えるなどして対応する。</p>	<p>観察力 読図力</p>
	<p>教室に戻り、清書用のワークシートをうけとり、防災上の特徴や問題を文章にまとめる。</p> <p>シティキャンパスの意見・感想を記入する。</p>	<p>悩んでいる生徒には、難しく考えず、思ったことから書き始めるように助言する。</p>	<p>表現力 思考力</p>
まとめ	<p>ワークシートを提出する。</p>	<p>次回の授業では、問いの解答と、防災上の注意すべき点などを学習することを伝える。</p>	

表3 巡検2の学習指導案
[導入10分、展開85分、まとめ5分]

テーマ	岡山市番町の過去・現在・未来		
授業目標	生徒自身が地図を活用して岡山市中心部を観察し、歴史的背景や近年の地域変化を考える。		
	学習活動・内容	指導上の留意点	評価
導入	<p>岡山市中心部の巡検学習とその内容を聞く。 「今日のシティキャンパスでは、岡山市番町を対象に、その歴史や地域の変化に注目して歩いてみることにしましょう。」 課題プリントをうけとる。 巡検学習の進め方と諸注意を聞く。 ※当日うける注意事項（生徒活動型）は、巡検1と同じ。 学校から北消防署番町分署前まで移動する。</p>	<p>本時の目標を理解させるとともに、前回の巡検学習とは進め方が異なることに留意させる。 野外学習時のケガや重大な問題が生じた場合は、状況に応じて学校へ連絡し、担当者は適切な処置をとる。 担当者が引率する。</p>	<p>態度・関心</p>
展開	<p>地図で現在の位置を確認する。 番町の歴史を学ぶ（教師説明型）。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の武家屋敷であったことを知る。 ・一番町から八番町まであったことを知る。 ・当時の町割が残されていることを知る。 ・疎開道路の位置と役割を理解する。 </div> </p> <p>課題プリントを持って街を歩き、各問いに取り組む（生徒活動型）。 [問いの内容] <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 土地の高さと標高差の計測、小早川秀秋の墓、神社の由来、長屋の位置と変化、福武書店社屋の跡地利用、番町保育園の位置、宅地開発、など </div> </p>	<p>地図上で確認させる。 城下町については、身分・職業別に各区画がわかれていたことを説明する。 一番町から八番町が現在どのあたりに該当するか、地図上で確認させる。 生徒が巡検上の諸注意を守っているか、進捗状況を確認する。進捗状況がきわめて遅い生徒には、ヒントを与えるなどして対応する。</p>	<p>読図力 読図力 知識・理解 観察力 読図力</p>
	<p>教室に戻り、レポート用紙をうけとり、地域の特色や変化を文章にまとめる。</p>	<p>悩んでいる生徒には、難しく考えず、思ったことから書き始めるように助言する。</p>	<p>表現力 思考力</p>
まとめ	<p>ワークシートを提出する。</p>	<p>次回の授業では、問いの解答、番町地区の地域的特色と変化について学習することを伝える。</p>	

高差を計測したり、実際の事物を地図上に記したりする能力である。巡検1では問1②③⑤⑥⑨、巡検2では問2③⑤が該当する。巡検2では、読図力に関する設問がやや少なくなっている。神田(2019)では、これらの能力をそれぞれ3点になるよう設定したが、今回の評価では、各観点における問いの数が異なるので、正答率を中心にみていきたい。

表現力については、「野外観察の内容を整理し、その結果をもとに考察や類推を行い、論理的に説明する能力」とする(神田,2019)。なお、神田(2019)では、思考力も観察力や読図力とともに個別に評価できるようにしたが、今回の評価(観点)では、思考力と表現力のセットとした。評価対象は巡検後のレポートの内容で、表4の評価規準を用いてABCの3段階評価とする。

表4 レポートの評価規準

地域の特色や変化が明確に示されており、自分なりの考察や見解がなされている。	A
地域の特色や変化が書かれているが(やや記述が乏しい)、自分なりの考察や見解がない。	B
地域の特色や変化がほとんど書かれていない。	C

知識理解は、おもに定期考査で判断することにしたが、2018年度の巡検1と2および2019年度の巡検2では実施できていない⁶⁾。したがって、ここでの分析は参考として提示する。

2. 解答結果の分析

本校の巡検学習は、どれも大きな問題なく進めることができた。生徒は、2~4人程度のグループで話し合いながら各ポイントを見て回っていた。時間切れですべて解答できない生徒もいた(とくに巡検2の場合)ものの、時間内には学校に戻ってきた。

ここでは、まずプリントの解答状況について分析する(表5)。巡検1からみると、正答率

がもっとも高かったのは、③の西川用水の川幅に関する設問である(96%)。これは、2017年度の巡検学習でも同様の結果が出ており、今井・神田(2019)では、生徒が西川の清掃活動や総合的学習で体験活動を行っている影響ととらえている。②の西川の流れる方向においても、③に続いて91%と高い正答率であった。これらはいずれも読図力に関するものだが、観察力に関する①と⑩も8割以上の正答率となった。一方で、もっとも低い正答率は⑨であった。おそらく、一見しただけでは錯覚する距離であったと思われる。また、それに次いで低い正答率66%の⑥は、標高差を求める問いである。2017年度実施の巡検でも同60.6%で、低い傾向にある。地図を見るとわかるが、実際に現地を考え込んだり、高さを目測していたりする生徒もいた。観察力に関する問いの⑦も、正答率の低く69%の正答率であった。なお、この問いは、2017年度巡検の場合、正答率83%であった。

表5 正答率について

a) 巡検1(計112人)

問い	観点	正答率	人数
①	観察	90.2%	101人
②	読図	91.1	102
③	読図	96.4	108
④	観察	72.3	81
⑤	読図	66.1	74
⑥	読図	89.3	100
⑦	観察	68.8	77
⑧	観察	75.9	85
⑨	読図	60.7	68
⑩	観察	83.9	94

b) 巡検2(計105人)

問い	観点	正答率	人数
①	観察	89.5%	94人
②	観察	99.0	104
③	読図	33.3	35
④	観察	82.9	87
⑤	読図	70.5	74
⑥	観察	89.5	94
⑦	観察	43.8	46

資料: プリントの解答を集計し作成。

注) 右の欄は、正解した人数。

地図を見て学校周辺を歩いてみよう〈シティキャンパス〉

1. 地図の①～⑩について、つぎの問題に答えましょう。なお、問題の番号は、下の地図の番号と一致します。
 - ①後楽館中学校・高校には西側の校門付近に看板があります。後楽館中学校・高校は何に指定されていますか。
 - ②西川用水はどの方向に流れていますか。
 - ③西川用水の川幅は約何mですか。地図の目盛りを見て、下のア～ウより選んで答えなさい。
ア. 10m イ. 50m ウ. 70m
 - ④この建物は地震で倒れないように工夫されています。それは何ですか。建物の外観をながめてみましょう。
 - ⑤この標高（4.5m）と、南方保育園との標高差はどれくらいですか。
 - ⑥この通りには、北消防署（番町分署）があります。その建物の位置を、地図上に●で示してください。
 - ⑦地震が発生したとき、この付近を歩いていたら、何に気をつけなければならないですか。
 - ⑧この付近に歯科医院があり、その前には、災害時（とくに地震）に役に立つものがあります。それは何ですか。
 - ⑨この広い土地に岡山中央小学校があり、災害時の避難所になっています。その敷地の東西は約何mありますか。地図の目盛りを見て、下のア～ウより選んで答えなさい。
ア. 70m イ. 100m ウ. 120m
 - ⑩ここは、大雨時に通行する場合、注意しないといけません。ここには何が通っていますか。
2. 今日は、学校の周辺でシティキャンパスを実施しました。それをふまえて、学校周辺の防災について、気づいたことや考えたことをまとめましょう。
3. シティキャンパスの感想・意見を自由に書いてください。

※清書は、学校に戻ってから行いますので、観察中はメモだけでOKです。



図1 巡検1の課題プリント

資料：岡山市市域図（1/2,500、一部改変）による。

岡山市番町の過去・現在・未来〈シティキャンパス〉

1. 岡山市番町の歴史について、つぎの問題に答えましょう。担当者の解説をよく聞きましょう。

- 1) 番町は、江戸時代に何が広がっていたのでしょうか。 ()
- 2) このあたりは、一番町から八番町までがありました。現在のA、B (岡山西井線) 付近は、それぞれ何番町がありましたか。 A () B ()
- 3) 番町には、戦時に延焼用防止として疎開道路が設けられました。この道路の部分地図上に記しましょう。

2. 地図の①～⑦について、つぎの問題に答えましょう。なお、問題の番号は、下の地図の番号と一致します。

- ①ここには瑞雲寺というお寺があります。ここにある墓は、かつての岡山城主の1人ですが、だれの墓ですか。ヒント：入口付近の石碑を見るとわかります。
- ②ここには、備前地方でもっとも社歴の古い神社があります。何という神社ですか。
- ③この通りは津山往来といひ、歴史的な街なみを残しています。この区域に見られる長屋の位置を、地図上に●で示しましょう。ヒント：タクシーの看板があります。
- ④ここにも10年前までは長屋があったようです。ここは現在どのようになっていますか。
- ⑤この標高 (3.2m) と、その東側のT字路付近の標高差はどれくらいですか。
- ⑥ここには現在、建物だけが残っています。かつて何がありましたか。
- ⑦ここには、1971年に福武書店 (現：ベネッセ) が本社をおき、その後も当社の社屋として利用されていました。現在、ここは何が建っていますか。

3. 今日のシティキャンパスについて、地域の変化など気づいたことや考えたことをまとめましょう。

※2. については、学校に戻ってから清書してください。観察中は、上記解答だけでなく、気づいたこともメモしておきましょう。レポートを書くときにきっと役立ちますよ。

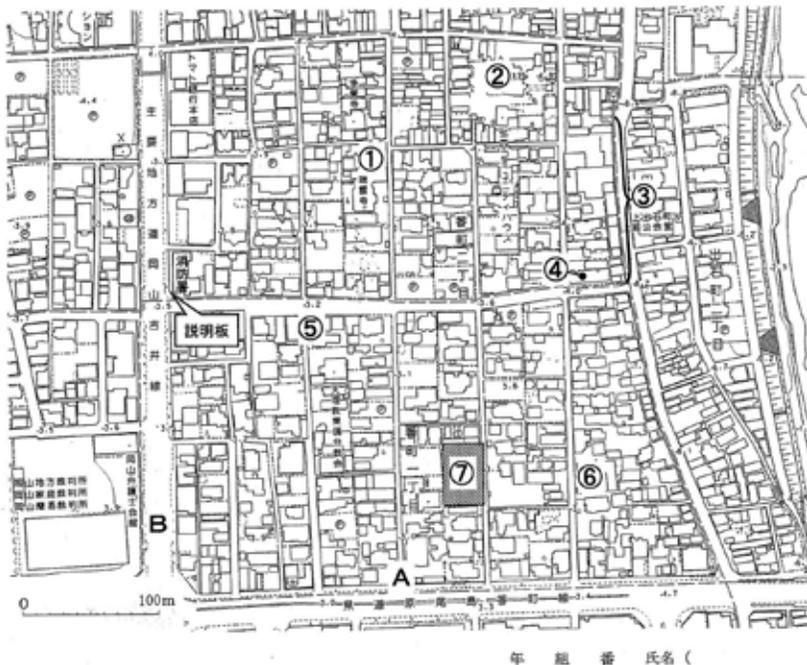


図2 巡検2の課題プリント

資料：岡山市市域図 (1/2,500、一部改変) による。

つぎに、巡検2についてみると、もっとも正答率が高かったのは②の神社名で、99%であった。看板、建物がわかりやすかったからであろう。①は正答率89%で、不正解は誤字によるものである。観察力に関する問いでは④や⑥もおおむね高いが、⑦は非常に低かった。この問いは、地域変化に関するもので、誤答には岡山聖心教会が非常に多かった。この付近には似たような通りが続き、すぐ隣に教会もあるため、判断に迷ったことがうかがえる⁷⁾。一方、読図力に関する2つの問いでは、このうち⑤(標高差)は70%の正答率であった。ただし、子細にみると、2018年度と2019年度で差が生じている。すなわち、前者は正答率40%で巡検1の結果が活かされたといえないが、後者はかなり正答率が高く、巡検1での学びが活かされている。

③の長屋の位置については、両年度とも低い傾向で、正答率も3割程度である。この通りも目印になるような建物がなく(白図には建物だけが記されている)、生徒にはわかりにくかったようである。生徒の解答状況を見ると、ここから少し外れた位置に印が付けられているものが多い。

巡検1における観察力の正答率は78.2%、読図力は同80.7%、巡検2における観察力は同80.9%、読図力は同51.9%であった。総合すると観察力のほうが読図力よりも高い傾向にあるが、その内容には違いもみられる。すなわち、周囲から目立つ建物や看板などはわかりやすく、その問いの正答率も高いものの、巡検2の問⑦のような同じような通りが続くと判断に迷い、正答率は必ずしも高くはならない。また、読図力に関する問いも、正答率の高いものと低いものがある。

3. 表現力の評価

表現力については、生徒が書いたレポートの内容で行う。3段階の評価規準にしたがって評価した結果、巡検1の場合、A31.3%(35人)、B42.9%(48人)、C25.9%(29人)であった。巡検2の場合、A24.8%(26人)、B39.0%(41人)、

C36.2%(38人)であった。これを見るとB評価が4割前後、Aの割合が巡検1よりも2のほうがやや少なかった。A評価とB評価との違いの1つは、自分なりの考察があるかどうかである。したがって、地域の特色や変化が明瞭に書かれていても、この考察がなければBとなる。巡検1では、防災といういたって現代的問題でかつ身近なテーマを扱っているため、生徒も自分事として臨んだ場合が多かったのではないだろうか。一方、巡検2では、地域の変化が明確に書かれているかどうかAかBかの判断材料の1つにしているため、巡検1よりもややハードルが高くなったと考えられる。

ここでは、ケーススタディとして巡検1と2のレポートを取り上げる。

○巡検1のレポート(2018年度実施)

学校の周辺は、交通量が多いという印象しかなかったけれど、すみずみまで見ると、いろいろな防災設備があるんだと分かった。津波がきたときはここは何mというような看板があったりして、とても災害時にはよいのではないかと思った。最近は携帯電話を使っていて公衆電話の数は少なくなってきているけど、災害時には必要なものだと思うので位置などは知っておいた方がいいと分かった。また、この周辺をゆっくり歩いてみる機会が今までなかったので、学校の近くには、消防署があったりするんだと気付いた。また、標高がところどころ違うということも地図を見て気が付くことができた。市内の学校なので学校の周辺はビルなど高い建物が多いので、災害の時は気をつけたいと思った。災害時の避難所などはあまりくわしく知れていないと思うから、そこをもっと知りたいと感じた。後楽館が応急給水栓設置校になっているのは知らなくても、もっとみんなが見るようなところに看板をつけた方がいいのかなというふうに感じた。まだまだ防災設備を上げたほうがいいのかなとも思った。

レポート1では、やや内容の捉え違いがある

ものの、学校周辺の防災の特徴や災害リスクなどがまとめられている。設問の内容をヒントにして書いているし、生徒自らからフィールドを歩いて気付いた点も加えている。また、レポートの後半部分では、自分なりの考察もなされている。

○巡検2のレポート（2019年度実施）

学校の周りをあまり歩いたことがなかったので、新しく見るものがたくさんありました。建物を見ながら、歩いていたので、風景がたくさん変わって楽しかったです。古い建物と新しい今風の建物が混在していてコロコロ変わる雰囲気がとても温かい町なみに感じました。昔ながらの木造で造られている家と新しく塗られている家が並んでいて、歴史の変化を感じることができました。小早川秀秋や伊勢神社など今までで聞いたことはあったけど、意外と身近にあって驚きました。せまい路地っばい所を通りぬけたり、ジブリの雰囲気を感じたとともに、この町なみが残ってほしいと感じました。古い家と新しい家が混在しているところから、だんだんと古い家は住む人がいなくなり、空き家になると壊されてそこに新しい今時の家が建っていくだろうと想像できました。せまい道が多く、建物と建物の距離が近かった。道路からすぐ玄関がある建物は、昔からある家だろうと考えました。

レポート2では、やや感想風な部分もあるが、古い建物と新しい家との混在という地域の特徴が明瞭に書かれている。また、レポートの後半部分では、歴史の変化と今後も変わりうる建物のようなすが示されている。レポートからは、実際にまちを歩き、変わりつつある景観を実感できたことがうかがえる。

4. 巡検1と巡検2における表現力の評価の変化

各巡検における表現力の評価方法は、前節で述べたとおりである。では、生徒の個々の表現力の評価は、巡検1と2ではどのような変化が

見られるのだろうか。そこで、巡検1と2のレポートの評価の組み合わせを、表6に整理してみた。ここでは、巡検1と2の両方に参加し、レポートを提出した計94人を対象とした。

表6 表現力の評価の変化

巡検1	巡検2	人数	割合
A	A	13人	13.8%
A	B	16	17.0
A	C	3	3.2
B	A	11	11.7
B	B	14	14.9
B	C	13	13.8
C	A	0	0.0
C	B	7	7.4
C	C	17	18.1
計		94	100.0

この表から以下3点を指摘する。第1に、巡検1と2のいずれもA評価であったのは、全体の14%であった。すなわち、この生徒らはテーマの異なるいずれの巡検にも対応し、表現力（思考力）も高いといえる。また、この評価の生徒は、おおむね読図力や観察力も高い傾向にあった⁸⁾。つぎに、この評価に次ぐA—BまたはB—A評価は、それぞれ17%と12%であった。どの評価までをよいと見なすかは判断がわかれるところだが、A—A、A—B（またはB—A）をおおむね良好とするならば、これらの生徒群は全体の43%となる。

第2に、いずれもC評価であったのは全体の18%で、相対的に表現力に課題が残る生徒群である。このC—CにB—C、C—Bの評価を含めると39%となる。要するに、表現力の高い生徒が4割いる一方で、相対的に評価が低い者も4割程度存在する。

第3に、A—C、C—Aといった極端な評価はほぼなく、とくに、C—Aは皆無であった。このことは、生徒の表現力が短期間で一足飛びに伸びないことを示す。

今後の評価の方向としては、単に表現力や思考力の高さだけでなく、その伸長さにも注目する必要がある。したがって、C評価からB評価

へ、またB評価からA評価への移行は参考に値する。ここでは、C-B（7%、7人）について注目してみたい。この生徒群のレポートを読み直すと、巡検1においては地域の特徴が書かれているものの、その内容が少ない場合が多かった。この場合は、もう少し書き足すことでB評価になる。また、防災対策の必要性についても、どんな対策が具体的に言及があるとよいものもみられた。巡検2では、巡検1よりも内容が整理され、地域の特徴（新旧建物の混在など）がきちんと書いてあるもの、地域変化への着眼点も見られた。レポートへの教師のコメント⁹⁾や、巡検学習の事後指導によっても、そうした変化が出てくることが考えられる。

5. 知識・理解の評価

本章のはじめに述べたとおり、知識・理解の評価については実施できない年度や回があった。そこで、実施できた2019年度の巡検1を中心に取り上げる。ここでの知識・理解の評価は、定期考査で行い、問題は①ハザードマップ（名称を解答する）、②災害時におけるコンビニ（災害時帰宅困難者ステーション）の役割（選択式）、③学校周辺でおこりうる水害の特徴を文章で解答するものである。配点は計10点、①3点、②2点、③5点とした。平均点は、6.9/10点であった。巡検が5月下旬、試験が9月上旬でその間

隔があるものの、おおむね良好な結果といえる。

IV. 生徒の意見・感想と態度・関心へのアプローチ

Ⅲ. では、巡検学習の評価方法とその結果を報じた。巡検学習の清書用紙には、レポートの後に意見や感想を書く欄を設けている。この章では、その意見・感想から巡検学習の教育的意義や効果を見出してみたい。また、本稿では態度・関心の評価を行っていないが、生徒の意見や感想の記述がその評価へアプローチできる場合が考えられる。つぎに、態度・関心について、現段階での私見を述べたい。

1. 生徒の意見・感想

生徒の意見・感想（表7）では、まず指摘されたこととして、現地を歩くことでテーマに関する新しい発見ができたことである。生徒がふだん登下校で歩いているところも、注意深く観察することでわかることがある。このことは、生徒の興味関心の高まりを示している。2017年度の巡検学習でも、楽しかった理由として、このように新しい発見があったとする回答が最多であった（今井・神田、2018）。また、この点とかかわって、「日ごろから意識して建物を見ようと思った」という意見では、いろいろな事

表7 生徒の意見・感想（抜粋）

巡検1

いろいろな場所に看板や情報などあるのだと初めて知ることが多かった。
 防災について考えながら歩いたり建物を見たりすることがなく、知らないことがたくさんあった。
 いろんな防災についての工夫がされていることが、実際に確認できた。
 自分が生活する地域の災害時の対応は知っておくべきだと改めて思いました。
 見てわかる情報を考えとりこんで、そのときの予測をすることはとても大事だと感じた。
 何かあったときのために自分の身の周りの土地について知ることとはとても大切だと思った。
 先生に教えてもらうのとは違い、自分で探すことでわかったときの感覚があった。

巡検2

自分が生活している地域の周りに、あんなに古くて趣きのある建造物が多くあるとは思わなかった。
 校外学習をすることで、岡山の歴史を感じる事ができてよかった。
 歴史的な街並みの雰囲気や地域の変化を感じる事ができた。
 日ごろから意識して建物を見ようと思った。
 写真や絵、話だけではわからないことや現地でしか味わえないものが知れてよかった。
 地図が少し難しく、その場所にたどりつくのが大変だった。

象を見るように努めようとするのがうかがわれる。これは、今後の生徒の生活において、地理的な態度を意識づけるものであろう。さらに、巡検1において、「自分の身の周りの土地について知ることが大切」、「災害時の対応を知っておくべき」だと感じたことも特筆すべきである。

巡検そのものの評価としては、「写真や絵、話だけではわからないことや現地でしか味わえないものが知れてよかった」という意見があった。巡検が通常の授業と違い、自らが歩くことで知的好奇心や満足した様子が伝わる内容であろう。以上の意見から察すると、生徒は本巡検をおおむね好意的にみている。

他の意見では、地図の読み取りに苦労したというものがあつた。ふだん見慣れていない白図であるがゆえに、そう感じたのであろう。

2. 態度・関心の評価に関する私見

巡検学習の態度・関心に関して、筆者はこれまで厳密な評価を行えなかった。本稿でも、具体的な数値で示すといった評価はできていない。果たして、態度や関心の計測ができるのかという疑問もある。しかしながら、既往の研究では、態度や関心について評価を試みたものがみられる。松岡(2012)では、生徒がフィールドで観察した事象の数をを用いて、態度・関心の評価をしている。今井(2014)は、生徒に巡検後に書かせた感想文とその文章量から判断している。いずれも、目に見える内容を数値化し、態度・関心の評価としており、参考としたい。

巡検学習の態度・関心に関する評価は、次期学習指導要領の新観点である「主体的に取り組む態度」も考慮しつつ考える必要がある。ここでは、生徒の学びに向かう姿勢が評価の対象となり、前節でみた生徒の前向きな授業への取り組みは、当然プラスの評価となろう。ごく簡単に評価するならば、きちんと巡検に参加したかどうか判断の材料となりうる。筆者は、巡検学習の態度・関心について、数値化はひとまず保留にしておくが、形成的な評価にはその可能性があるように考える。たとえば、生徒自身に

よる自己評価や表現力の評価の変化、事後の意見・感想など、数項目を評価の題材とすることである。また、生徒のなかには、フィールドで疑問に感じたことをレポートや感想に記している。こういったことも、評価対象にできるかもしれない。今後の課題としたい。

V. おわりに

本稿では、岡山後楽館高等学校の地理A選択者を対象に、2018～2019年度の春秋計2回実施した巡検学習の評価を報じた。評価の観点については、観察力と読図力が巡検中に生徒が解くプリントの問い、表現力(・思考力)を巡検後に書いたレポートで判断することとした。また、レポートにおける評価の変化についても検討を加えた。その結果および考察を以下のようにまとめた。

第1に、評価の結果、観察力のほうが読図力よりも高い傾向にあったものの、細かく見ると、観察しやすいものとそうでないもの(同じような建物が並ぶ通りなど)があり、同じ観察力といえども評価に違いが出ている。

第2に、表現力の評価では、その人数の割合がAは2～3割、Bは4割、Cは2～3割程度となった。巡検2のほうがややC評価と多くなったが、これは地域の変化が明瞭に書かれているかどうかという点で、巡検1よりもやや難度が上がったようである。

第3に、レポートの評価の変化を検討した結果、良好とされる評価(A—A、A—B、B—A)が4割であった。A—Aの生徒群では、読図や観察力も高くなる傾向にあった。また、CからAへの極端な変化はみられなかった。C—Bのように地道に評価を上げるとすれば、事後指導、教師のコメントのあり方を考えていく必要がある。

第4に、生徒の意見・感想により、生徒活動型の巡検学習の教育的意義と効果を確認できた。生徒の新しい発見や気づき、意識の変化がみられたことは、新しい学力観にもとづく「主

体的に取り組む態度」からも示唆に富む。また、そうした生徒の態度や関心の高さは、態度・関心への評価の一部になりうるが、本稿ではその評価について私見を述べるに留めた。

以上、数年におよぶ巡検学習から評価研究を前進させることができた。本稿の成果と神田(2019)の内容をもとに、巡検学習で身につけるべき各能力とその関係を示しておく(図3)。生徒の観察事象と読図の内容は巡検学習の基礎ともなるもので、それぞれ観察力・読図力とみなされる。それらの情報をもとに、生徒自らが思考判断して地域の特色をまとめることができる(表現力)。今回の巡検学習では、レポートをまとめる際の根底に思考力を位置づけているが、それを切り離してプリントの問いに設定することもできよう。また、巡検学習の一連の過程のなかで、テーマとなる知識も身につけていく。さらに、態度・関心も、観察、読図、レポートへの取り組みの姿勢やその伸長の度合に関連するものと考えられる。

本稿の評価は、そのまま生徒の学習評価として採用したものは一部で、そのねらいの1つは今後の授業改善や指導につなげることであった。最後に、巡検学習をふまえた今後の指導のあり方について2点ほど指摘しておきたい。第1に、1単位時間での巡検学習では観察力の評価が高い傾向だが、その観察行動が地域の特色を知るうえで有用なことを、日ごろの授業の場面でも取り入れることである。教室内の授業は当然、プリントやスライドで写真を掲載するこ

とになり、注目すべき部分の解説や生徒自身への読み取りが、観察の有用性や能力とも関連するのである¹⁰⁾。第2に、標高や立体的なものの見方を生徒に意識づけることである。巡検学習では、読図力に関して標高差の計測に課題を残した年度があった。土地を立体的にとらえることも、地理の考え方を深めるであろう。都市中心部における地上と地下の空間利用などが好例である。また、災害に着目すれば、浸水時には数十cm水位が高くなると、それだけで移動のリスクが高まる。生徒には、地形上の数mの違いも意識させたい。

[追記] 岡山後楽館高等学校の先生方には、巡検学習の実施に関してご配慮いただき心よりお礼申し上げます。

注

- 1) 2017年度の巡検学習(岡山市中心部の防災)については、今井・神田(2018)で報告している。また、2020年度は、新型コロナウイルスの蔓延措置により、勤務校が5月下旬まで休校したため、巡検学習は秋季のみの実施であった。
- 2) 筆者が勤務した2017～2020年度の4年間をみると、地理Aはいずれの年も3講座が開講されている。受講者は計60～77人/年程度である。なお、筆者は、2018年度に2講座、2019年度に3講座を担当した。
- 3) 各教科でみると、たとえば、国語：吉備路文学館の訪問・見学、現代社会：裁判所の見学・傍聴、岡山の歴史と文化：岡山後楽園、津島遺跡などの見学があげられる。
- 4) 生徒活動型の巡検では、後述のように配布したプリントの問題を生徒が解きながら進めるので、その解答内容の記述をもとに、観察力や読図力の評価をしやすいこともあげられる。
- 5) 本稿では、巡検学習の準備段階については言及していない。この点について、巡検1

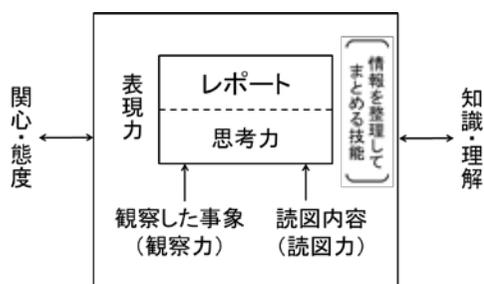


図3 巡検学習の評価の観点とそのつながり

は神田・今井（2018）を参照してほしい。また、この準備については、巡検学習の普及ともかかわるので、稿を改めて報告したいと考えている。

- 6) 2018年度の巡検1については、9月の定期考査で判断する予定であったが、その年の7月に西日本豪雨があり、被災した生徒に配慮して試験範囲に含めなかった。
- 7) 低い正答率だが、とくに2018年度の巡検では正答率14%であった。生徒のなかには、「道がすごくわかりにくくて、途中迷子になりかけた」という感想がみられた。なお、2019年度の巡検では2/3の生徒が正解していた。
- 8) A-Aの13人における問いの平均点は、巡検1が8.5点、巡検2が5.6点であった。なお、全体では、それぞれ7.9点、5.1点であった。
- 9) 筆者は、生徒のレポートにおいて、よかった点、改善すべき点（もう少し具体的に説明する、記述量を増やす）など若干のコメントを付して返却している。
- 10) 授業では、たとえばアメリカ合衆国の都市を取り上げる際、景観写真を用いて、中心部と周辺部との建物の高さの違いに注目させている。

を事例に一」(松岡路秀・今井英文・山口幸男・横山 満・中牧 崇・西木敏夫・寺尾隆雄編『巡検学習・フィールドワーク学習の理論と実践—地理教育におけるワンポイント巡検のすすめ—』古今書院) pp.64-70

文 献

- 今井英文（2014）「高等学校『地理A』におけるワンポイント巡検の実践と評価」地理教育研究14 pp.10-18
- 今井英文・神田竜也（2018）「高等学校『地理A』におけるウォークラリー巡検の実践的研究—岡山市中心部における防災をテーマとして—」地理教育研究23 pp.11-18
- 神田竜也（2019）「巡検学習の実践と評価に関する考察—中等教育学校の『地理A』における導入を中心として—」紀要（岡山大安寺中等教育学校）55 pp.16-28
- 松岡路秀（2012）「巡検学習の評価—中学校『身近な地域』の学習におけるワンポイント巡検